

---

# 買わせない屋

原 始人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

買わせない屋

### 【Zコード】

N5152F

### 【作者名】

原 始人

### 【あらすじ】

買わせない屋に勤める新入社員、恩田にふりかかる悪夢のような1日。

## 1話・買わせない屋とは??

「募金もあるぞと言つただひつ」

野村主任は太い眉をひそめて言つた。

太い眉をひそめると、柴犬みたいになるけれど、もちろん口にはしない。

いま僕は怒られている。

もう少しで、うまく初仕事を終えられるところだったのに。

入社して半年。ずっと野村主任にくつづいていた。それからやっと解放されて、一人で仕事を任せてもうえりようになつたのに。

「でも募金は何かを買つたわけじゃないから……」

「お金を使わせたらダメなんだよ」

そう言つて、野村主任は長いため息をつく。口臭の問題があるから、僕は一歩さがる。

おかしな話だ。

僕は買わせない屋に勤めている。

文字どおり、人を買わせないようにするのだ。

もちろんやみくもにするわけじゃない。ちゃんと依頼主がいて、それ相応のお金をいただいて、指定された人物がお金を使わないように妨害する。

人はとにかくお金を使う。いらないものを何度も買う。

だから、買わせない屋が存在する。

「恩田くんも村上みたいにはなりたくないだろ？」

小さなオフィスに野村主任のいやらしい笑い声が響く。

僕は先輩の村上さんのことを見つた。

村上さんは業績が悪かつたために、とんでもない依頼の担当にされてしまった。

それは自給自足をしている人間がものを買わないよう、一年間妨害しつづけるというもの。

なんでも、疑り深い依頼主が

「あいつは本当に自給自足しているのか」と思いはじめたのがきっかけの依頼らしい。

だから、村上さんはいま新潟県の山奥に住む老人を尾行している。

あと四ヶ円も残っている。

結局、村上さんも山奥なので、自給自足をせざるを得ないらしい。

それだけは絶対にイヤだ。

そこへ電話が鳴る。野村主任が受話器を取る。

しばらくしたのち、野村主任は不適な笑みを浮かべて、僕に言った。

「恩田くん、依頼だ」

## 2話・依頼主とはいかなる人物か??

依頼を受けた場合、僕たちは喫茶店で依頼主に会うことになつている。

いつも指定する喫茶店は野菜喫茶という名前だった。

そこの野菜「一ヒーが僕のお気に入りだ。

依頼主は五十代くらいの女性だった。

長い髪にはつやがあり、とてもきれいだつたけれど、つりあがつた  
耳はややきつて、我的強い印象があった。

僕は緊張した。

「はじめまして。買わせない屋の恩田です」

僕が言うと、女性はドキリとした様子であたりを見まわした。

これは彼女に限つたことではなくて、

「買わせない屋」の名前を出されると、依頼主はヒヤヒヤしてしま  
うものらしい。

「佐藤洋子です」

と彼女は名乗り、つづけて言つた。

「娘がお金を使いすぎて困つてゐるんです」

「娘さんの名前と年齢を教えてください」

「佐藤小百合、26歳です」

彼女のいない23歳の僕はヘンテコなスイッチがパチリと入った。

「本当に買わせない屋って、人にものを買わせないようにしてくれるんですか」

「100%の保証はできません。万が一、お金を使わせてしまった場合はそれ相応の対応をさせていただきます」

「……わかりました」

僕は野菜コーヒーを口に含んだ。

「娘さんがお金を使いすぎている原因は何だと思いますか」「たぶん、彼氏に貢いでるんだと思います」

「うりやまじこ」と強く思つた。

「それに?」

「それに?」

「夫がリストラされたんです。だから、小百合にお金を渡せなくなつてきて」

「娘さんの職業は?」

「このお父フリーターです」

「わかりました。まずは娘さんに会わせてください。ヒルアディ、いつからこつまで買わせないみうすすればいいですか」

「これが重要なポイントだ」

「一回だけになります」

それで本当に買わなければ、もう少し期間を長くしようと。そういうことってできますよね」

「もちろんです」

娘さんと会う日には明日の夕方と決まった。

念つと言つても、ターゲットと直接関わつあつわけではない。

ファーストコンタクトの場合は、遠くから観察することであつておかなければならぬ」

かくして、僕は娘の小百合さんを見ることとなつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5152f/>

---

買わせない屋

2010年10月30日10時06分発行